

食には一石二鳥以上の効果あり カギは「外貨獲得」「循環」「波及」

岡山大学大学院社会文化科学研究科教授 中村 良平氏

ご当地グルメによる地域活性化運動の代表格「B-1グランプリ」で岡山県勢が相次ぎ入賞し、県外客が殺到する状況に、地元経済界も熱い視線を送っている。地域での金と物の動きを研究する都市経済学を専門分野とし、B級グルメの一角、おかやまデミカツ井応援隊のアドバイザーを務めるなど、ご当地グルメによる町おこしにも詳しい岡山大学大学院社会文化科学研究科教授の中村良平氏に、地域経済におけるご当地グルメの影響について聞いた。



—ご当地グルメ熱をけん引するB級グルメブームをどう見る。

研究室にも県北までB級グルメを食べに行くという学生がいるほか、スーパーにもホルモンうどんなどが並び、広く浸透していることが実感できる。

ほかの地域活性化の取り組みと大きく異なるのは、スポンサーの存在。火付け役となった「B-1グランプリ」はもちろん、各地域のB級グルメで町おこしに取り組む団体をアサヒビールなどが支援したことで、単発に終わらず大きな動きとなった。ネットで広範囲に早く、大量に情報が届くコミュニケーションの変化も後押しした。

ただB級グルメブーム自体は、そろそろマンネリ感が出てくるのではないかと。今年あたりがピークになるだろう。

—地域経済に与える影響は。

一石二鳥以上の効果があるのがご当地グルメだが、大きく分けて2つの効果がある。1つは外貨獲得。客は地域外から来てマネーを落とし、それがご当地グルメを提供する店舗の経営者など、地域の誰かの所得になる。2つ目は、循環。カキやホルモン、キャベツなど提供するものに地元のものが使われていれば、地域内でマネーが回る。域外からのマネーが増え、流出が少ないほど地域の経済は活性化する。この2点は、ご当地グルメに限らず、地域産業が活性化するためのポイントだ。

さらに付け加えるなら波及効果もある。ただ、着地型の観光商品開発など、

その効果を得るための仕掛けが必要だ。

—ご当地グルメによる地域活性化に必要なものは。

自ら積極的に動いて地域を巻き込みネットワークを広げていく旗振り役だろう。ただ、活動を続けていくためには、企業と同様に後継者の育成が大切。承継しないと個人の負担が重く、疲れも出るし、マンネリにもなる。

ブランドの維持も重要。せっかく遠方から来てまずかったら台無し（ノ）

だ。たまたままずい店だったとしても、ネットなどで広がればブランドが傷つく。いかに品質を担保していくかが肝心。

ストーリー性が成否の分岐点

一方注意しなければならないのは、行政の支援の仕方だ。団体の意にそぐわない支援は不効率な上、活動の足かせとなりかねない。余計なことをせず、まずは団体が一生懸命やって、その意をくみ取る形で支援することが重要。津山ホルモンうどん研究会のように、市職員と一緒に活動するような、良い関係を築くことが理想だろう。

—ご当地グルメ自体に必要なことは。

ストーリー性が非常に大事。ヒットするかどうかの分岐点と言ってもいい。単なるメニューでなく、その土地に行って食べたくなるような仕掛けが必要。創作料理でも、地域の故事や歴史上の人物に絡めることで魅力的になる。

また、料理自体にもピークがある。入ってきた金を再投資し、2番手、3番手のご当地グルメを開発するなど挑戦し続けることが重要ではないか。